

平成29年度広島市立広島特別支援学校第3回学校協力者会議概要

1 日時 平成30年2月22日（木）（10:00～11:30）

2 場所 広島市立広島特別支援学校 校長室

3 内容

(1) 学校長挨拶

(2) 委員長挨拶

(3) 協議

ア 学校の現状について

- ・ 港湾計画の用途変更が市議会で承認され、平成34年に処理場跡地（1万5千㎡）に高等部に特化した学校の増築（170名収容）が決定した。グラウンドは、地域開放する予定である。
- ・ 安田女子高等学校から、被爆桜の苗木を譲り受け、「平和の継承」を目指して植樹した。
- ・ 平成30年度の新入生は、小学部31名、中学部32名、高等部94名が入学予定である。
- ・ 子どもの実態を的確に把握し、保護者の教育的ニーズに応じて、指導に当たる必要がある。
- ・ 保護者の願いを繊細に受け止め、指導に当たる必要がある。
- ・ 学校は閉鎖された空間ではなく、オープンになってきているので、教員にその自覚が必要である。
- ・ 相手の思いを受け止めるためのコミュニケーションや会話の重要が益々高まってきている。
- ・ 児童生徒を指導する際、言葉遣いには気を付ける必要がある。
- ・ 保護者が当たり前と思っている障害のある児童生徒の基本的な考え方の理解が必要である。
- ・ 第三者評価など、学校の現状を客観的に評価していくことが大切である。

イ 平成29年度学校経営計画最終評価について

- ・ 高等部では、生徒のパソコンの使用（Word入力・Excel入力）が伸び、小学部では、教員のタブレット端末の使用（動画の提示）が伸びており、ICTの活用が浸透してきている。
- ・ 自ら進んで主体的に活動できるような環境づくりができたと答える教員の割合が増加した。
- ・ 教員アンケートについては、全教員が回答しており、教員の意識の高まりが感じられる。
- ・ 教員アンケートについては、1位、2位の合計を集計することで、傾向がつかみやすい。
- ・ 教員アンケートについては、昨年度の数値を併記し比較することで変化が分かりやすい。
- ・ 保護者アンケートの回収率を更に高めていくことで、より充実した指導に生かしてほしい。
- ・ ポスターセッション等、授業の中身をお互いに見合う取組の成果が、実践に表れつつある。

(4) 委員長挨拶

(5) 学校長挨拶